

はじめに

『古今和歌六帖』は十世紀後半に私的に編まれた歌集である。編者は不明だが、四千数百首を五百余の題のもとに分類し、六帖とした手腕には驚くべきものがある。

『万葉集』『古今和歌集』『後撰和歌集』の歌のほか、『貫之集』との歌の一致が顕著である一方、藤原公任の歌が皆無であることがその成立の時期推定の手がかりとなる。おそらく公任撰の『拾遺抄』より前に『古今和歌六帖』は成立していたのであろう。上限はいつか。現在知られる最も新しい歌は、
琴の音に峰の松風かよふらしいづれの緒よりしらべそめけむ

の歌で、貞元元年(九七六)秋の歌合に、斎宮女御によって詠まれたものである。成立は従って九七六年以降であろうと推定される。『枕草子』や『源氏物語』などの成立に先立つこと四半世紀という頃である。

本書は、永青文庫所蔵の『古今和歌六帖』の影印複製本を底本とし、全歌について注釈を施したものである。とりあえず第一帖について、【異同】【現代語訳】【語句】【所載】【参考】の項目にわけて説明した。